

アンネの日記 (文春文庫)

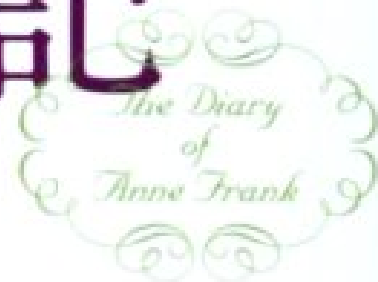


アンネ・フランク

深町眞理子=訳

増補新訂版

アンネの
日記



文春文庫

出版: 文藝春秋

著者: アンネ フランク

ページ: 597

PDF

『アンネの日記』が最初に世に出たのは1947年。そして91年に、47年版でカットされていたアンネの人間味あふれる記述（鋭い批判精神や性のめざめ、など）を復活させた「完全版」

が出版された。この「増補新訂版」は、98年に新たに発見された5ページ分を加え、翻訳資料をさらに徹底させたもの。まさに「アンネの日記・決定版」といえる。

イラク戦争を目の当たりにした今、本書が単なる歴史の記録でないのは明らかだ（2003年4月）。戦争に突き進む不寛容、抹殺される恐怖、惨めな状況でも楽しみを見つけようとする人々。アンネが日記に向かっていた60年前と、今日の世界とでは、どれほどの違いがあるというのか。14、5歳の少女が、ここまで世界と人間の「変わらぬ姿」を浮き彫りにしたことに驚くほかはない。「どんな不幸のなかにも美しいものが残っている。美しいもののことを考えれば、しあわせになれる」というくだりは、とくに胸を打つ。このおしゃまな少女は、他人の痛みを知るといった経験をとおして、豊かな大人の女性にまちがいなく成長したはずだ。その可能性をあっけなく、不当にも奪う戦争。『アンネの日記』は私たちの視線を、アンネの世界を越えて人間の愚かしさへと向ける。
(小林千枝子)

<https://rapidgator.net/file/0fc936246b5d87df028a7558ffdd11d0/oa4obuxiu.pdf.rar.html>